

日本心理学会第86回大会公募シンポジウム

掘り起こされていない研究分野を開拓する方法(現在進行中)
－実証的宗教心理学の挑戦－

近接する研究分野(宗教学)
と連携することの意義

東京家政大学
藤井修平

発表者はこれまで、宗教研究の新機軸として、宗教心理学、宗教認知科学の方法論を検討してきた。

本発表ではその立場から、心理学と宗教学の連携によってどのようなメリットが得られ、どのように研究を展開させることができるかについて、具体的な研究例を示しながら検討を行う

宗教心理学の研究が日本で進まない理由

3

宗教心理学は、米国心理学会(APA)においては第36部門「宗教とスピリチュアリティの心理学」において活発に研究が行われているが、日本においてはほとんど進んでいない。その理由は、以下の3つが想定できる

1. 国内の心理学研究における宗教の存在感の低さ
2. 日本人の宗教性・スピリチュアリティの捉えにくさ
3. 研究成果の埋没

心理学と宗教学の連携によるメリット

4

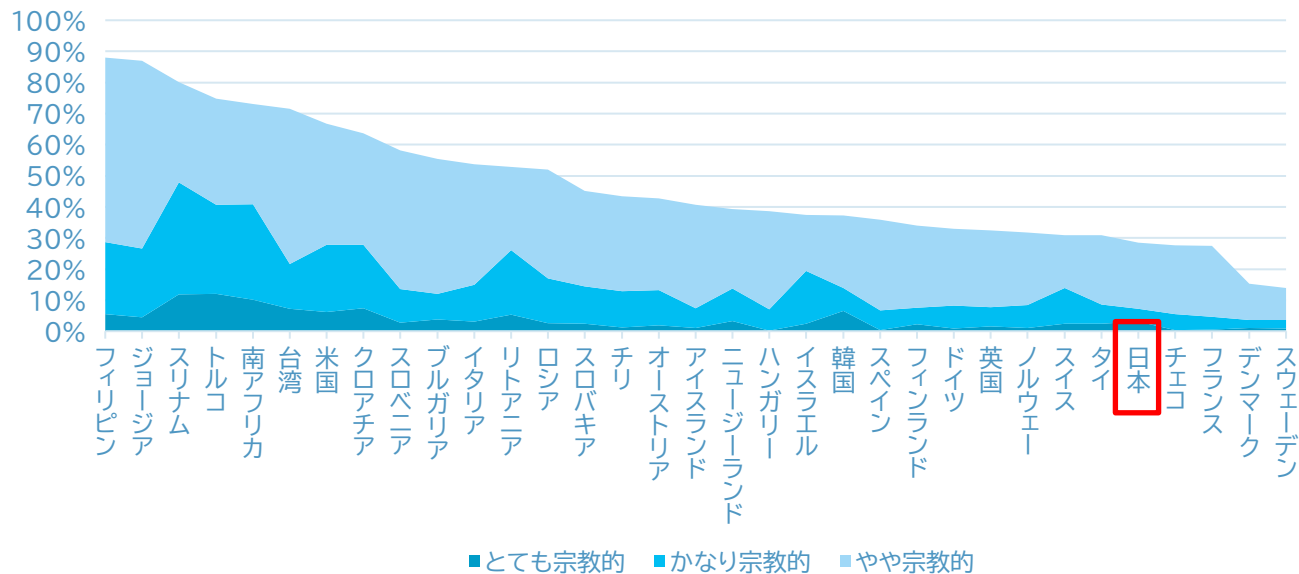
こうした問題について、心理学と宗教学の連携によって解決できると述べたい。そうした連携のメリットとして、以下が挙げられる

1. 宗教学が、宗教の定義問題に対して知見を提供できる
2. 宗教学が、検討すべき理論を提供できる
3. 既存の心理学的研究を、「宗教」の観点で統合することによって、相互の関連性がわかる

今回は、1の宗教の定義問題に関する貢献を中心的に扱う

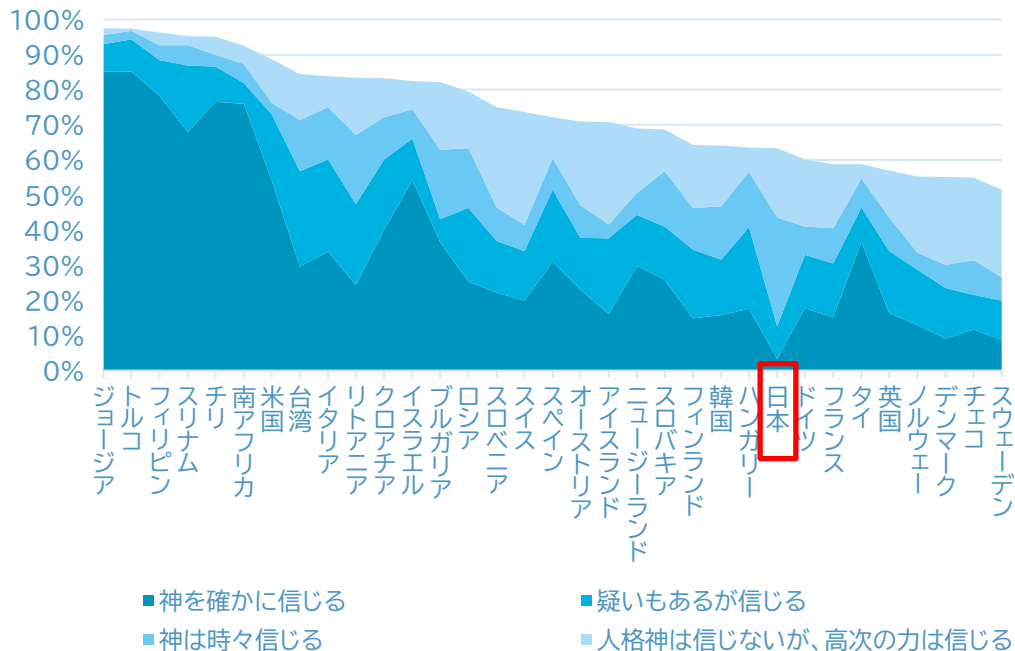
日本人は「無宗教」だと言われる。実際に、2018年の国際社会調査プログラム(ISSP)の調査で宗教を信仰していると答えた人は仏教32%、神道3%など計36%で、64%は「信仰している宗教はない」と答えている。また「とても宗教的」「かなり宗教的」「やや宗教的」と答えた人の合計は、29%である(ISSP Research Group, 2020)

宗教性に関する質問結果



神への信仰に関する質問結果

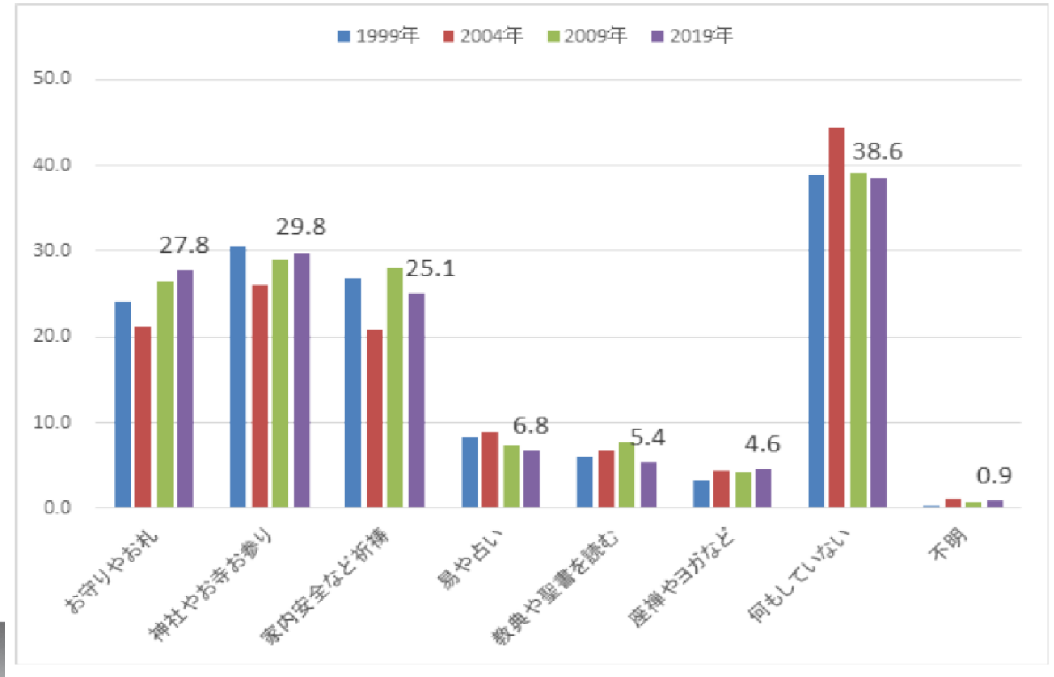
他方で、神を信じているかどうかの質問で「神は時々信じる」「高次の力は信じる」まで含めると、合計は63%となり順位は上がる



宗教的行為の質問結果

8

さらに、別の調査の「どんな宗教的な行為を行っている？」という質問への、「どれもしていない」の回答は2019年で38.6%なので、約6割は何らかの宗教的な行為をしていることになる(庭野平和財団, 2019)



ここからわかるのは、宗教には複数の側面があり、日本人は「特定の集団に所属している」「特定の宗教を信じている」という面ではあまり宗教的ではないが、「不思議なものを時々信じる」「宗教的といえる行為を行う」という面では宗教的な人が多数派になるということである

「宗教」が、捉え方によってまったく異なったものになるということは、宗教学がこれまで示してきたことである。宗教概念批判の視点は、宗教が

- » 自然カテゴリーではなく構築物であること
 - » 主に西洋的な視点が反映された概念であること
- を明らかにしてきた(McCutcheon, 2001)

Santa Clara Strength of Religious Faith Questionnaire (Lewis, et al., 2001)

- 1.私の宗教的信仰は私にとってきわめて大事だ
- 2.私は毎日祈る
- 3.私は私の信仰をインスピレーションの源と考える
- 4.私は私の信仰が人生の意味と目的を与えてくれると考える
- 5.私は信仰や教会において活動的だと思う
- 6.私の信仰は私が一個人であることの重要な要素だ
- 7.私の神との関係は私にとってきわめて大事だ
- 8.私の信仰を周りの人と共有するのが楽しい
- 9.私は私の信仰を慰めの源と考える
- 10.私の信仰は私の決断の多くに影響している

11

ゆえに、宗教を研究する際に西洋の尺度などをそのまま用いると、誤った結果をもたらすことになる

実際の例として、Shariff and Norenzayan (2007)の研究では、「神聖な」「神」などの宗教的言葉をプライムした群が、「陪審員」「警察」などの世俗的制度の言葉をプライムした群と同じく、統制群に比べて経済ゲームにおいて利他的になったことを報告している。

日本でも宮武・樋口(2019)が再現を試み、宗教的な言葉として「神社」「仏」「キリスト」をプライムしたが、統制群と比べて有意差は見られなかった

このことはつまり、測る前に、宗教とは何かが(ある程度)わか
っていないなければならないということである

宗教が対象の場合、「宗教とは何か」に対する文化間、個人間の違いがあまりにも大きい。この違いが、宗教は日常生活にあまり関わっていないと思われていることの原因でもあり、宗教の心理学的研究の停滞をもたらしている

この点について、宗教の心理学的研究のために宗教学のこれまでの蓄積を役立てることができる。そのような試みとして、とりわけ日本語の「宗教とは何か」を実証的に解明することを計画している

その方法は、以下の3つが挙げられる

1. これまでに考案された宗教に関する尺度の収集
2. 「宗教」の語の計量テキスト分析
3. プロトタイプ理論による宗教概念の把握

1. 宗教に関する尺度の収集

16

これまで日本語で行われた宗教に関する調査研究の中から、

- » 宗教に関する尺度
- » 質問紙調査・意識調査

を抽出してその質問項目を収集し、それらの特徴を分析し、分類する

その結果と、英語での宗教に関する尺度の研究結果との比較を行う

2. 「宗教」の語の計量テキスト分析

17

新聞のデータベース、学術論文、SNSから「宗教」の語が用いられている文章をランダムサンプリングし、計量テキスト分析によって特徴を抽出する

この分析で「宗教」に対する共起語のリストが得られ、その共起語を種類や領域ごとに分類することで、宗教がどの領域と関わるものと理解されているのかを知ることができる

3. プロトタイプ理論による宗教概念の把握

18

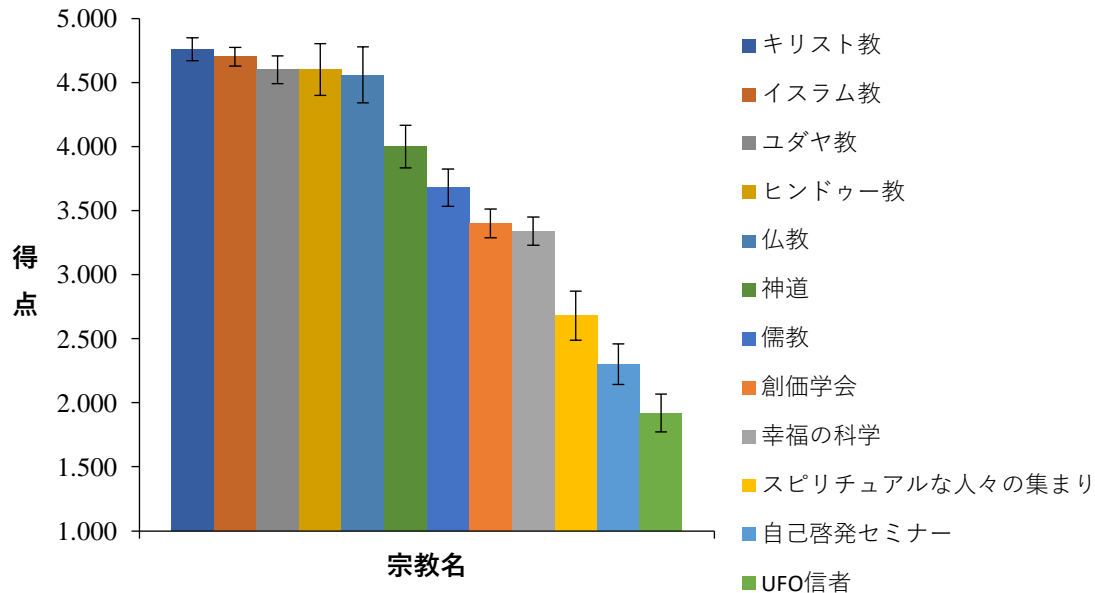
認知心理学におけるプロトタイプ理論は、人は概念を定義的特性によってではなく、相互に類似点のある緩やかな集まりである家族的類似性によって理解しているとみなす。多数の定義が存在して一致を見ない宗教概念は、この理論で扱うのにふさわしい対象といえる(Saler 1993)

プロトタイプ理論に基づき、質問紙調査によって宗教概念の理解の状況を解明する。どのような対象が「宗教」の例として典型的であるかや、「宗教」はどのような特性をもつと思うかについて尋ねる質問紙を作成し、回答を収集する

パイロット研究の結果

宗教ごとの典型性の質問結果に対する分散分析の結果

(以下に提示する対象がどれほど宗教らしいかを5段階で評価してください)

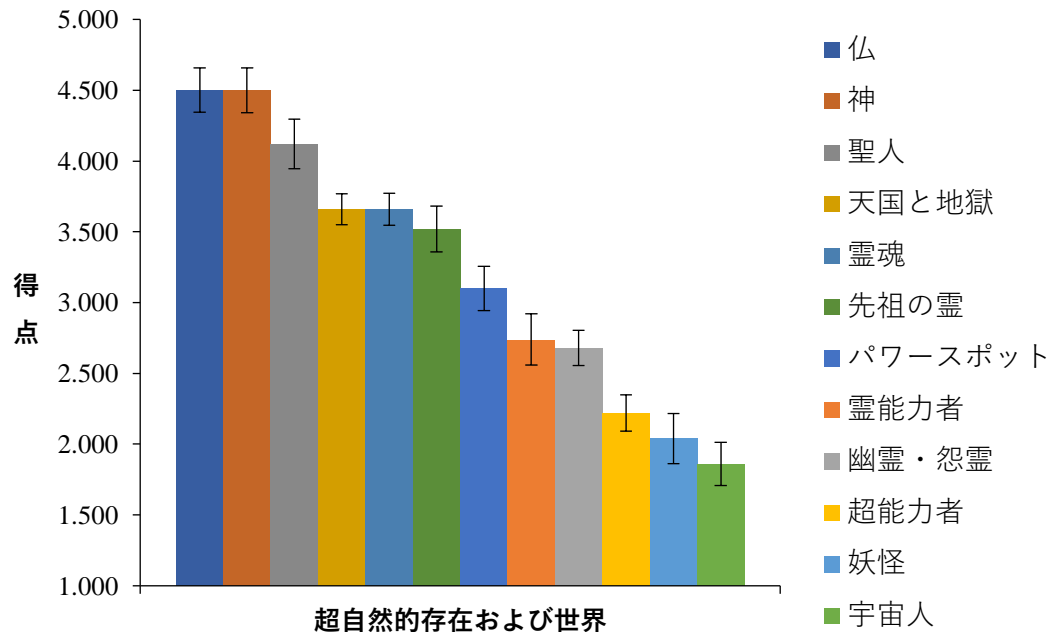


パイロット研究の結果

20

「超自然的存在および世界」の典型性の質問結果に対する分散分析の結果

(以下に示す「超自然的存在・世界」について、それぞれを信じていることがいかに宗教らしいかを5段階で評価してください)



- » 多面的で文化差のある「宗教」概念を十全に把握できていなかったことが、これまで宗教は心理学的に研究できない、研究する価値がないと思われていたことの原因の一つである
- » 宗教学的な知見を用いて宗教概念を把握することによって、日本での研究にふさわしい宗教概念を設定することができ、日本人の宗教性の解明に貢献できる

ISSP Research Group (2020). International Social Survey Programme: Religion IV - ISSP 2018. *GESIS Data Archive*, Cologne. ZA7570 Data file Version 2.1.0, <https://doi.org/10.4232/1.13629>.

Lewis, C.A., Shevlin, M., McGuckin, C. et al. (2001) . The Santa Clara Strength of Religious Faith Questionnaire: Confirmatory Factor Analysis. *Pastoral Psychology*, 49, 379–384.

McCutcheon, R.T. (2001). *Critics not Caretakers: Redescribing the Public Study of Religion*, Albany: State University of New York Press.

宮武 沙苗・樋口 匡貴 (2019). The effects of culturally specific religious priming on a Japanese sample in an anonymous dictator game. *上智大学心理学年報*, 43, 41-47.

- 庭野平和財団 (2019). 世論調査:日本人の宗教団体への関与・認知・評価の20年－1999年・2004年・2009年・2019年の世論調査から－ Retrieved from https://www.npf.or.jp/pdf/2019_research.pdf (2022年7月15日)
- Saler, B. (1993). *Conceptualizing Religion: Immanent Anthropologists, Transcendent Natives, and Unbounded Categories*. Leiden: Brill.
- Shariff, A.F., Norenzayan, A. (2007). God Is Watching You: Priming God Concepts Increases Prosocial Behavior in an Anonymous Economic Game. *Psychological Science*, 18(9), 803-809.